

みんなの広場

ぼくとわたしの



新冠小学校6年生です



私の夢は、カフェの店員になることです。理由は、みんなを幸せにしたからです。

港 明花里



私の夢は、栄養士です。理由は、いろいろなメニューを、考えてみたいからです。

村田 ころ



ぼくの夢は、理数系の仕事につくことです。理由は、理科や算数が好きだからです。

宮ノ脇 佑介



ぼくの将来の夢は、動物園の飼育員です。動物の体調管理をしっかりして、動物を幸せにしてあげたいからです。

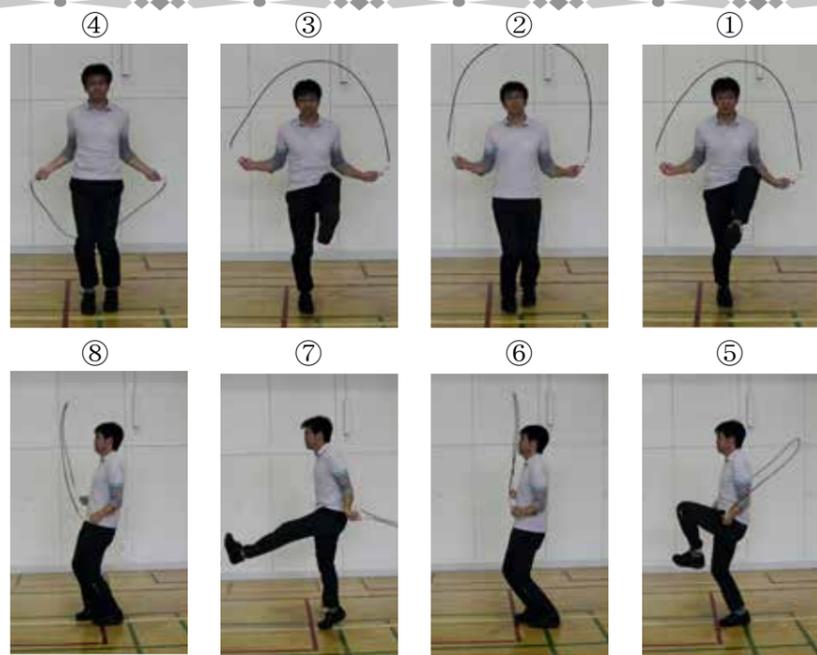
八木 涼太



ぼくの将来の夢は、働きながら社会人のチームに入って、楽しみながら野球をやることです。

矢野 朝輝

縄跳びトリック(技)の紹介 『キャンキャン』⑭



●解説

ライダングスのように、膝を高く上げた後に同じ足の膝を伸ばして高く上げながら縄を跳びます。タイミングはハイニーと同じで、「①②③④」の①で膝を上げ、③で膝を伸ばして空中をキックするように上げます。

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

(要約文)

第二十話 「木製モッコについて」

新冠町郷土資料館にはモッコと呼ばれる木製の運搬具が展示されています。これは節婦で使用されたもので、漁師の人たちがコニシン（正しくはカタクチイワシ）を舟から陸揚げするときに、主として女性が背負い運んだものです。展示されているものは汚れがほとんどなく、屋印や年代について書かれていませんが、製材が良く、板幅が広いことなどから昭和時代の前半に製作されたものではないかと思われます。今回は、このモッコについて紹介いたします。

モッコという名前の由来は、辞典によると「もちこ（持籠）が変化した語」とあり、「藁葎（わらむしろ）や藁縄を、網に編んだものの四隅に綱をつけて、土・石などを盛り、棒で担って運ぶ具」と説明されています。木製箱型のもものは、江戸時代の末期には使用され、イワシやニシン漁に伴って多く使用されていました。

運搬方法から、二人またはそれ以上で運ぶものと一人で運ぶもの、材質から藁や樹皮などでできたものや竹や蔓などを編んでいるもの、使用する立場から大人用



郷土資料館に展示している「木製モッコ」

と子供用などがあります。また、魚以外にも石炭運び、農作業などでも広く使用されました。モッコは、北海道を中心として東北地方の一部でも使用されていたようですが、「寒冷な地域の場合、籠状のものであれば背中が濡れ、作業能率が低下するばかりか、寒さで病気になるかねないことから、本州や北陸、東北地方に見られる背負い籠を基盤とし、漁業技術の変化と寒冷な気候を背景として19世紀の半ば頃に発生」という説があります。（北海道開拓記念館第57回特別展・北海道の基層文化をさぐるより）

日本海沿岸のニシン漁は昭和30年代に姿を消し、新冠地方も同じ頃にイワシが少なくなっています。そのために関連する一連の漁具は不必要となり、しだいに消失していきました。このように、モッコはかつての北海道漁業の栄華を知る上で重要であり、当時の苦勞を偲ばせてくれる資料ともいえるでしょう。

～住宅用火災警報器を設置しましょう～

- 火災から大切な家族の命を守るため
- 自分自身の命を守るため
- 地域の安心・安全を守るため

消防署新冠支署

火災・救急出動状況		（ ）かっこ内は前年同期	
区分	火災件数	救急件数	
2年1月	0件(1件)	27件(30件)	
元年1～12月	5件(1件)	331件(316件)	
交通事故発生状況		（ ）かっこ内は前年同期	
区分	発生件数	死者	傷者
2年1月	0件(1件)	0人(0人)	0人(1人)
元年1～12月	8件(4件)	0人(0人)	10人(5人)

人のうごき

人口	5,488人	(前月比 + 4人)
男	2,688人	(前月比 + 1人)
女	2,800人	(前月比 + 3人)
世帯	2,764世帯	(前月比 + 7世帯)

(令和2年1月末現在)